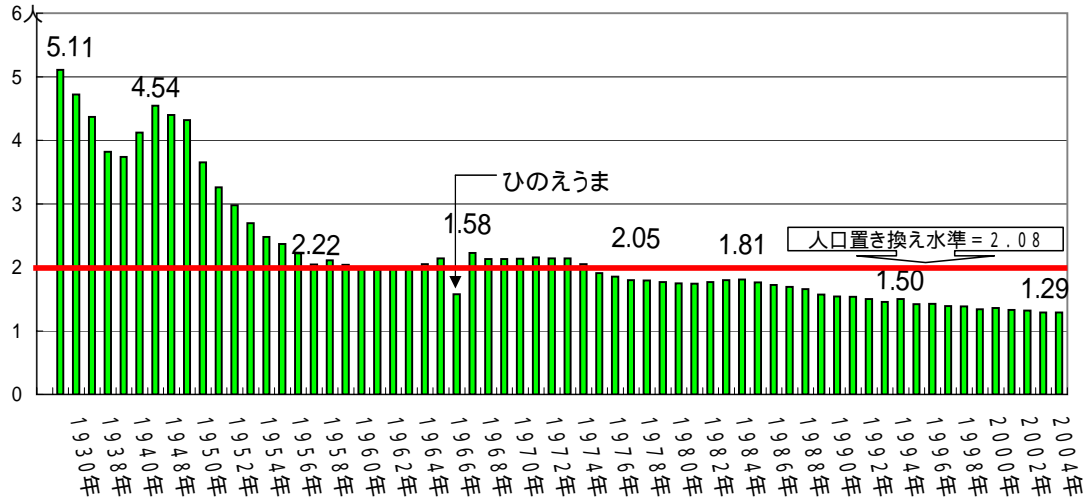


# 少子化の現状

## 資料 3

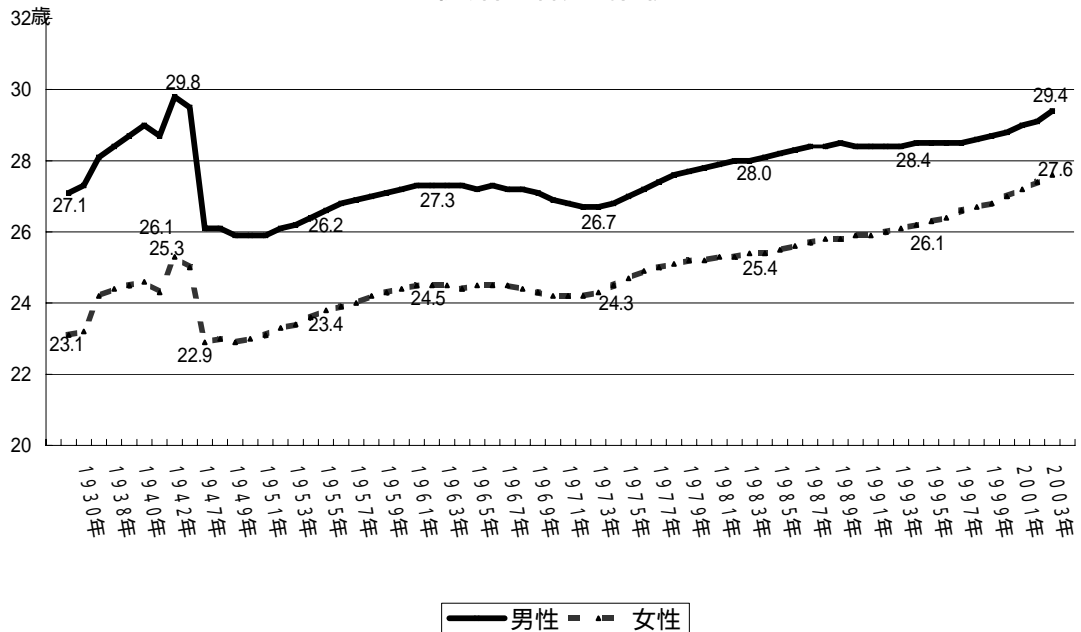
### 合計特殊出生率の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」、厚生労働省「人口動態統計」。「合計特殊出生率」とは、15～49歳までの年齢別出生率を合計したもので、一人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子供の数に相当。

人口置き換え水準：人口を維持するために必要な合計特殊出生率

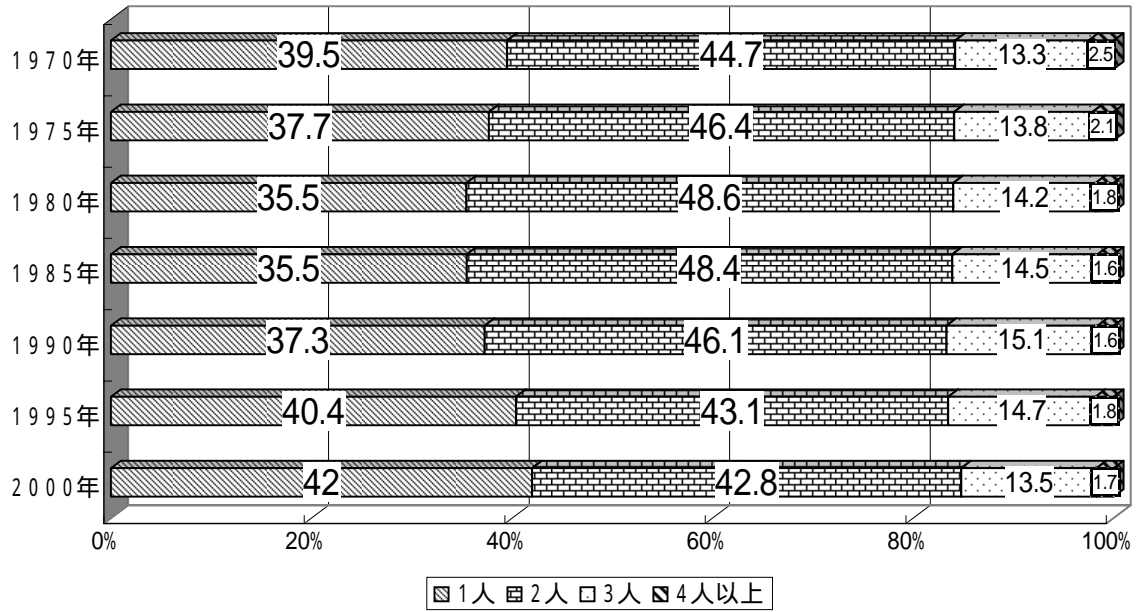
### 平均初婚年齢の推移



1947年と2003年(56年後)を比較すると、男性:3.3歳、女性:4.7歳 上昇

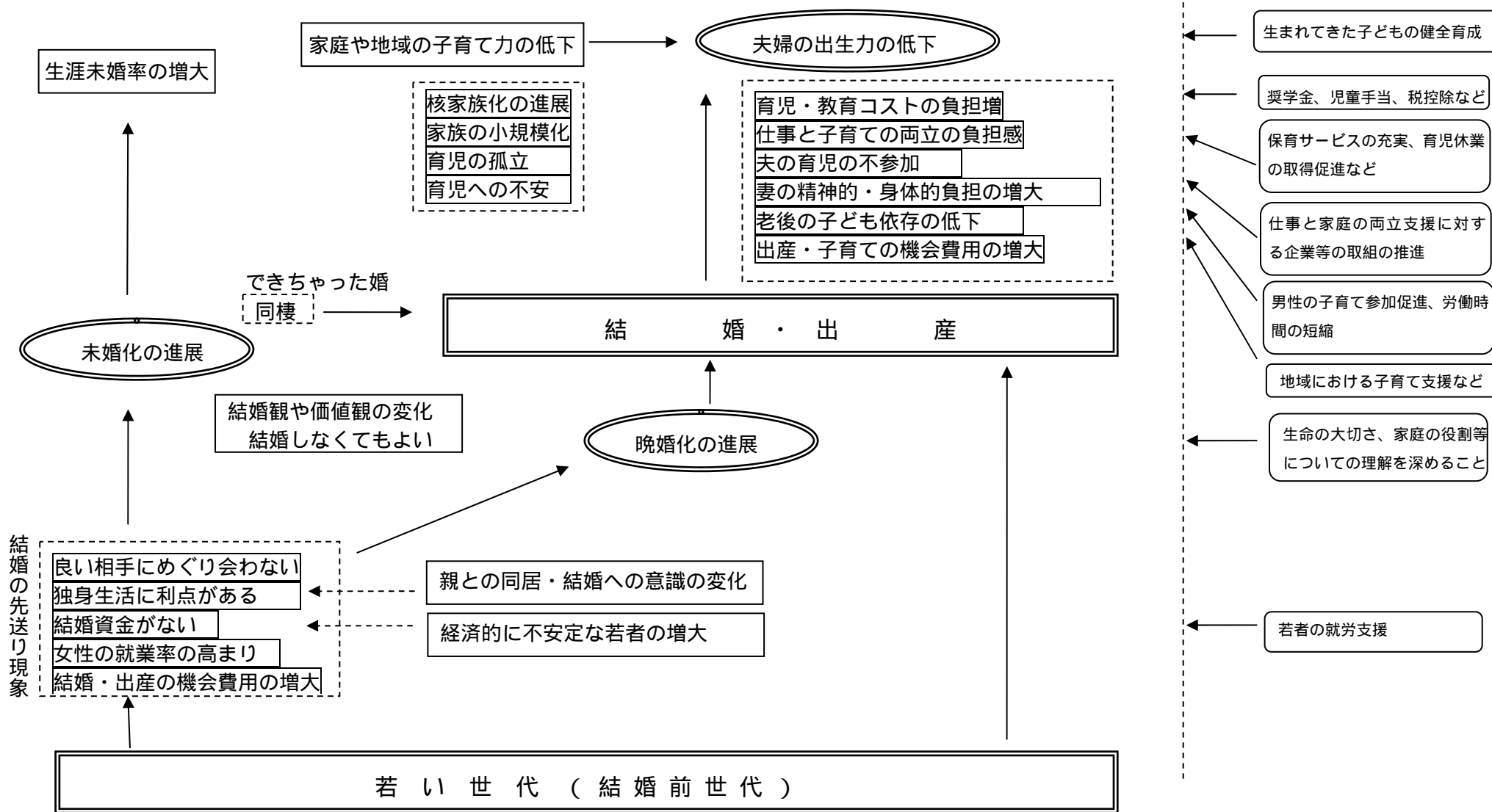
資料：厚生労働省「人口動態統計」  
1943年までは届出時の年齢、47～67年は結婚式を挙げた時の年齢、68年以降は結婚式を挙げた時又は同居を始めた時の年齢。

## 兄弟姉妹の構成の推移



出典：厚生労働省「国民生活基礎調査」  
注：児童のいる世帯のうちの児童数の構成割合

# 少子化（出生率低下）の原因とその要因



(注) 少子化の原因とその要因及び少子化対策のイメージ図である。○は、少子化（出生率低下）の原因、□はその要因、□は、その対策を示す。

出典：平成16年版 少子化社会白書

仮に現世代を5人（配偶者の数は含まない）とし、  
 (1) 5人の者の女性・女系を含めた子孫の数  
 (2) 5人の男性の男系男子の子孫の数（平均的な値）  
 を試みに計算すると以下のとおり。

女性・女系を含めた子孫の数

男性の男系男子の子孫の数（平均的な値）

（男子が生まれる確率を1/2とする）

< 出生率2の場合 >

< 出生率2の場合 >

	5人	
1世(子)	10人	(5×2)
2世(孫)	20人	(10×2)
3世(曾孫)	40人	(20×2)

	5人	
1世(子)	5人	(5×2×1/2)
2世(孫)	5人	(5×2×1/2)
3世(曾孫)	5人	(5×2×1/2)

< 出生率1の場合 >

< 出生率1の場合 >

	5人	
1世(子)	5人	(5×1)
2世(孫)	5人	(5×1)
3世(曾孫)	5人	(5×1)

	5人	
1世(子)	2.5人	(5×1×1/2)
2世(孫)	1.25人	(2.5×1×1/2)
3世(曾孫)	0.63人	(1.25×1×1/2)

< 出生率1.29の場合 >

< 出生率1.29の場合 >

	5人	
1世(子)	6.45人	(5×1.29)
2世(孫)	8.32人	(6.45×1.29)
3世(曾孫)	10.73人	(8.32×1.29)

	5人	
1世(子)	3.23人	(5×1.29×1/2)
2世(孫)	2.08人	(3.23×1.29×1/2)
3世(曾孫)	1.34人	(2.08×1.29×1/2)

本資料において「出生率X」とは、1組の夫婦からX人の子が生まれることを指す。  
 左欄（女性・女系含む）：各世代の人数×出生率＝次世代の人数  
 右欄（男系男子限定）：各世代の男系男子の子孫の人数×出生率×1/2（男子が生まれる確率）  
 ＝次世代の人数

（小数点3桁以下は四捨五入）